

2024年3月8日

世界の人びとのための JICA 基金活用事業 活動報告書

1. 業務の概要	
(1) 事業名	「ケニアにおける循環型社会形成を目指したリサイクルバックの製作による貧困層の女性と子どもたちのエンパワーメント事業(3年目)」(通常枠)
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人 Little Bees International
(3) 実施期間	2023年2月15日～2024年2月14日
(4) 実施国	ケニア共和国
(5) 活動地域	Baba Dogo 地区
<p>ケニアの首都ナイロビでは、中国資本を中心にした大規模インフラ整備・開発が進む一方、極端な貧富の差が拡大し、失業率も高止まりのまま、住民の30%以上が1日1.9ドル以下の最貧困ラインでの生活を余儀なくされています。また、急速な開発は環境破壊を進展させ、ナイロビ市の中心部を流れるナイロビ川の河川敷もゴミで覆われ、空気、土壌、水の環境汚染も深刻化しています。さらに、貧困層住民10人のうち4人がHIV陽性といわれ、またその内5割近くの女性がシングルマザーの状況にもあります。貧困家庭の子どもたちも4割近くが学校に通えない状況にもあります。そうした環境を改善するためのエンパワーメント事業が、本事業になります。ナイロビ市のジーンズ工場から排出されるデニムの余剰生地は耐性も強く、2013年から中古衣類・デニム生地をリサイクルして、子どもたちのためのスクールバックを生産・販売しています。生産メンバーは、シングルマザーやHIV陽性の女性たちになります。2017年9月からはビニール袋が使用禁止になり、女性たちの買い物用のエコバックの製作にも力を入れています。スクールバックは、子どもたちに無償配布もされていますが、併せてバックには、「Stop Child Labors!」や「Stop DV」といったメッセージをつけることにより、貧困層へのアドボカシー効果も狙います。</p> <p>新型コロナウイルスによる感染症への対策として、「Wear your Mask」や「Wash your hands」などの地域の公衆衛生の向上を狙ったメッセージを付けたバックも製作します。</p> <p>SDG1・5・12の達成を目標にリサイクル促進による循環型社会形成と女性の自立のための収入向上の一環として、一過性で活動を終わらせないためにも事業の継続によるスケールアップを狙います。活動地域は、貧困層が多く生活し団体がこれまで活動を行い、在ケニア大使館が作成する治安地図でも安全が確認されている、Baba Dogo 地区になります。地域における循環型社会の形成、及び脆弱な環境に置かれている女性たちのエンパワーメントのため、リサイクルバック・エコバック生産のためのキャパシティを拡大させます。本事業(1年目)で拡張した作業場も維持し、より多くの女性たちが参加できるよう広報活動も行いながら、活動参加者のモチベーションの向上を目指しTシャツを製作・配布を行います</p>	

(2年目)。また個人毎に大きなばらつきがみられるミシンのスキルも研修を実施するなど向上を図り、製作するバックの質の向上を目指しながら、スケールアップと共に住民のリサイクル意識を高め女性たちの収入向上と自立につなげていきます。3年目は、より確実な収入向上のため、ナイロビ市内の路上マーケットにリサイクルバックの直販所を設け、製作したバックのプロモーションと販売促進につなげていきます。

行政と協議しモデル区域を設定し、そこを重点的に清掃活動、プラスチックの分別回収を進めています。また循環型社会形成のため自助支援にもつながる女性グループによるリサイクルバックの生産にも力を入れて取り組んでいます。2年の活動によって培われた成果を点から線に、地域に広げていくためにも団体のスケールアップとキャパシティの拡張、そして持続可能な活動の継続が今後の目標です。参加する女性たちが活動を通じて、相互に助け合う機運も高まってきており、環境活動をベースにしながら脆弱な立場にある女性たちの支え合いの輪を広げていきます。

2. 業務実施結果

(1) 実施した内容

【実施内容①】

キャパシティビルディング・・・活動最終年である3年目を迎え、今後の持続可能な継続に向けて、活動の確固たる礎を築くための活動に注力しました。ハード的には、入れ代わり立ち代わり参加する女性たちの作業によっていたんだミシンの修理と整備を進め、新しいミシンの購入も実施しました。ソフト的には、環境への配慮(3Rや“木を植えよう”、“Mottainai”)や教育の大切さ、HIVの予防啓発、コロナ対策をアピールするアドボカシーバックの市場での浸透を図るため、近隣の路上マーケットでの展示の常態化を進めました。また、女性グループの結束、横のつながりを深めるために、Tシャツの製作も行い、それは女性グループの活動のシンボルとなっています。

【実施内容②】

女性たちの裁縫研修・・・ケニアでの30年以上の活動実績をもつ、エンブ県のNPO/NGO アフリカ教育基金の会にて研修を実施しています。新規のメンバーを中心に11名の女性たちが活動に参加いたしました。これまで裁縫をしたことのない新しい参加者が増えることによるミシンのいたみが深刻なため、改めて正しいミシンの使い方を学んでもらいながら、エコバックのデザインの仕方等を5日間の泊まり込みで朝から夕方遅くまでみっちり学んでもらいました。裁縫的な技術もさながら、研修中にいっしょに寝泊りをし、行動を共にすることで、参加者の横のつながりも増し、今後の活動を進めるうえでのエンジンになることが期待されます。

(2) 実施成果：

今年度は、世界的なインフレの波がケニアでも大きな社会問題となり、物価の値上がりに抗議する人々のデモが7月には全国的な広がりをみせて、国際ニュースにもなりました。そんな中であっても、女性たちは落ち着いて活動を続け、日常に起きる出来事や子どもたちの教育費の値上げなど、心配事もお互いにシェアしながら励ましあい、作業場は3年目の本活動でも、いつも和気あいあいとした女性たちによって占められています。女性グループは、シングルマザーが多いため、活動場所に子どもたちを連れてくる女性もいますが、作業中に幼い子どもたちが眠れるマットがほしいなど、託児所の機能をリクエストする声も出てきています。

近接するマーケットでのバックの展示場も順調に定着し、学校が始まる時期など、リサイクルスクールバックを手取る子供連れのお母さんが多くみられるようになり、そうしたところから活動を知って、作業場で参加することになった女性もいます。後半の方は、参加人数が増えたことからもう少し作業場を広げたい、というリクエストも出てきてうれしい悩みに団体の財務状況とにらめっこする日も続きました。もちろん、個人的な事情等でコミュニティを離れることになった女性もいますが（例：2年間女性たちの健康管理を担当していたCHW（コミュニティヘルスワーカー）のJさんがパートナーを見つけ遠くに引っ越すことになり、かわって同じくCHWのBさんが、女性の健康管理の役割を担うことになりました。）そうした別れもありながら、より広がりのある豊かな相互互恵の関係性のあるグループ活動へと成長を遂げています。日頃、身近で女性たちの裁縫活動を指導しているRさんも、活動当初は、” お仕事 “として作業場に通っていましたが、いまでは女性グループとの活動に居心地の良さを感じているようで朝早くから夕方遅くまで残って指導を続け、女性グループ全体の技術の向上とともにバックの生産性があがっていることに誇らしげに目を細めています。

(3) 得られた教訓など：

女性グループのリーダーが、12月から体調を崩してしまっています。心配した女性たちが、お金を出し合って、コミュニティホスピタルに1週間入院できるようにしてくれました。エヴァリンもまだ本調子ではありませんが、日常の生活を送れるまでには回復しています。貧しさの中であっても、お互いの思いやりの気持ちを忘れない女性グループの結束の強さを感じた一幕でした。まだまだジェンダーギャップの大きなアフリカのコミュニティ社会ですが、厳しい環境でもたくましく生きる女性たちの姿にアフリカの未来の明るさも感じています。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

作業場を探すところから始めて、3年間の助成活動を通じてお陰様で、参加者人数、バックの質・種類、そして女性グループの結束と、右肩上がりの成長を続けてまいりました。作業場を離れても、子どもたちの面倒を代わりに見るなど、私生活でも絆の輪が広がり、豊かなソーシャルキャピタルの醸成へとつながっています。プラスチックやアルミの分別回収活動など団体の行う環境活動にも積極的に参加してくれるメンバーも増え、女性グループは、LBIのエンパワーメント活動を支える大きな礎にまで成長しています。リーダー的な女性たちも育ってきておりますが、今後は、より自立的な活動を目指してバックの販売戦略も見直して、期待しているところです。

3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

作業場所の選定から始まった本活動ですが、雑多なコミュニティで暮らす女性たちにとって、やはり治安のよい清潔な作業場は、それ自体が女性たちにとって集まる大きなインセンティブにもなりました。また、せっかく参加してくれた女性たちが、継続的に来てくれるかどうか、というところも心配されたところではありましたが、もちろん個人差はありますが、活動にやりがいを見出し来てくれる方も徐々に増えていきました。継続性の大切さも実感しています。参加人数も女性グループということで、スモールグループに分かれたり、あるいはオープンに参加を開放していることで、いざこざのようなことが起きたら、ということも心配されましたが、代表のフローレンスの力強くも豊かなリーダーシップと、女性グループのサブリーダーたちの寛大な対応（ミシンが誰のものとか、席を奪い合ったりとかそういったこともなく）、何より、バックの作業自体の持つ楽しさ（ミシンを回す楽しさ）、そして作業場は3階にあります、コミュニティを見渡せる位置にある風通し・環境の良さが、おおらかな作業環境を形成してくれ、新規の方たちでも気軽に入っていける雰囲気ができる要因になったと思います。単発で入る邦人スタッフも女性グループとの活動の時間を楽しんでくれて、それだけでも団体活動にとって大きな人的資産になったと、メンバーみんなに感謝しております。

(2) 活動の写真

写真1 (作業中の女性たち)



写真2 (邦人スタッフ (元協力隊員) と女性たち)



写真3 (プラスチックの分別活動に参加する女性たち)



写真4 (購入したミシン)



写真 5 (研修中の女性たち)



写真 6 (マーケットでリサイクルアドボカシースクールバックと)



写真 7 (作業場で休む子ども)



(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

まず最初に、忍耐強く本活動を温かく見守ってくださった JICA 東京の本事業担当者の皆さまに厚く御礼申し上げます。ご担当者の方たちのご指導なくしてはこうして3年間の助成活動を最後まで無事走り切ることは難しかったと思います。なんと申しましても、途上国で日本の開発援助を主導する JICA 様のご存在は、アフリカ現地でも広く認識され、本助成を受けることが、女性グループにとっても大きな安心感とモチベーションにつながったと感謝しております。女性グループの活動チラシの方も作成いたしました。日本での活動へのご理解と支援のすそ野を広げるうえでも JICA 様からご支援を受けていることは大きな信頼へとつながったことは実感するところです。本年をもって、JICA 基金様のご支援が終了いたしますが、この3年間のご支援によって築かれた成果をもとにさらなる活動の発展と飛躍を目指して、女性グループの皆と頑張って参ります。本当にこれまでの御サポート、ありがとうございました。